



Title	鼠族の寄生虫に関する研究：第二編 対馬の恙虫について附. 対馬産恙虫の一新種
Author(s)	藤崎, 一克
Citation	長崎大学風土病研究所業績 3. p.1019-1024, 1954
Issue Date	1954-12-25
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10069/4868">http://hdl.handle.net/10069/4868</a>
Right	

This document is downloaded at: 2019-04-26T00:47:34Z

# 鼠族の寄生虫に関する研究

## 第二編 対馬の恙虫について

### 附. 対馬産恙虫の一新種

長崎大学風土病研究所衛生動物学研究室 (主任 大森南三郎教授)

藤 崎 一 克  
ふじ さき かず よし

対馬の恙虫相に関しては、報告がないので、著者は昭和28年5月及び12月に、厳原を中心として野鼠に寄生する恙虫の採集を行った。その結果2属5種の恙虫を得たが、その中の一種は未記録種であつたので、こゝに報告する。

この報告を出すに当り、終始御熱心なる御指導、御校閲を賜つた恩師大森教授、標本の同定、御指導を頂いた東大伝染病研究所佐々博士、並びに野鼠の採集に当り御援助を頂いた厳原保健所長秋元博士、厳原中学校故中尾信吉先生に厚く御礼を申し上げる。

### 調査成績

昭和28年5月14, 15, 16日及び同年12月28, 29, 30日の2回に亘り、厳原(34°12'N, 129°16'E.)を中心として、その南方約4軒離れた久田(くた)村及び北方約10軒離れた鶏知(けち)町に於て、夫々約100個のバネ式捕鼠器を用いて野鼠の採集を行った。

成績は第1表に示した通りで、5月に採集したものは、アカネズミ *Apodemus speciosus* (Temminck, 1847) 13頭、ヒメネズミ *Apodemus geisha* (Thomas, 1905) 1頭計14頭で、12月には、アカネズミ5頭、ヒメネズミ3頭、ヒミズモグラ *Urotrichus talpoides* Thomas, 1908 2頭、計10頭、合計24頭であつた。

恙虫の種類及び寄生総数は

<i>Trombicula tsushimaensis</i> n. sp.	138
<i>Trombicula fuji</i> Kuwata et Philip, 1950	133

<i>Gahrliepia saduski</i> Womersley, 1952	48
<i>Trombicula kuroshio</i> Sasa et Kawashima, 1951	24
<i>Trombicula tanaka-ryoi</i> Kawashima et Sasa, 1952	3

2属5種346個体であつた。

寄生状況について見ると、*T. tsushimaensis*を除いた外の種類は、既に日本に於て記録されているもので、朝鮮系のものが見出されなかつたが、今後更に調査を重ねたい。寄生数が5月に比べ12月が多かつたのは、日本内地と同様であるが、種類及び寄生数が全体として非常に少いように思はれた。これらの事については今後の研究によつて明らかにしたい。

**Table 1.** List of trombiculid mites from Tsushima Island.  
(From 14 to 16 May, 1953)

No.	Host	Locality	Date	T. n. sp.	T. fuji	G. sadu ski	T. kuro shio	T. tana ka-ryoi	Total
1	<b>R. speciosus</b>	Kuta	14/ V	2	0	1	0	0	3
2	〃	〃	〃	2	0	1	0	0	3
3	〃	〃	〃	2	0	0	0	0	2
4	〃	〃	15/ V	6	0	0	0	0	6
5	〃	〃	〃	0	0	0	0	0	0
6	〃	Izuhara	14/ V	1	3	1	0	0	5
7	〃	〃	〃	1	1	0	0	0	2
8	〃	〃	〃	0	0	0	0	0	0
9	〃	〃	16/ V	1	0	0	0	0	1
10	〃	〃	〃	1	0	1	0	1	3
11	〃	〃	〃	0	0	0	0	0	0
12	〃	〃	〃	3	0	0	0	0	3
13	〃	〃	〃	6	1	0	0	0	7
14	<b>R. geisha</b>	〃	〃	0	1	0	0	0	1
Total				25	6	4	0	1	36

**Table 2.** List of trombiculid mites from Tsushima Island.  
(From 28 to 30 December, 1953)

No.	Host	Locality	Date	T. n. sp.	T. fuji	G. sadu ski	T. kuro shio	T. tana ka-ryoi	Total
1	<b>R. geisha</b>	Izuhara	28/ XII	17	21	4	1	0	43
2	〃	〃	〃	57	37	5	12	2	113
3	〃	〃	〃	5	26	16	6	0	53
4	<b>R. speciosus</b>	〃	30/ XII	16	12	2	2	0	32
5	<b>U. talpoides</b>	〃	〃	0	0	0	0	0	0
6	〃	〃	〃	5	3	0	0	0	8
7	<b>R. speciosus</b>	Kechi	29/ XII	5	17	14	2	0	38
8	〃	〃	〃	0	4	0	1	0	5
9	〃	〃	〃	2	1	2	0	0	5
10	〃	〃	〃	6	6	1	0	0	13
Total				113	127	44	24	2	310

新種の記載

*Trombicula (Leptotrombidium) tsushimaensis* n. sp.

和名 ツシマツツガムシ (対馬恙虫)

特徴：生体時は橙色を呈し、*Leptotrombidium* 亜属の *akamushi* 群に共通の性質を示すが、背甲板が大きく、感覚毛、前中毛、前、後側毛が何れも極めて長く、側枝も比較的長くて、密に生えている事が特徴である。

顎体部：触鬚第2、3節背面の毛は単条、第4節背面の毛は分枝し、腹面及び側縁の毛は何れも単条、爪は3岐する。第5節は通常通りで、ガレア毛は分枝し、大顎基節及び触鬚は側方に角ばっている。

背甲板：矩形に近い形を呈し、大形で AW, PW は夫々平均 78.1, 86.4 $\mu$  に達し、側縁は後側毛基根

部よりも後方にのびて、丸味をもつて曲つている。後縁は中央部に於て、極めて僅かに凹入している。感覚毛の基根部は後側毛基根部を結んだ線よりやや後方(平均 4.5 $\mu$ )にあり、感覚毛は長く、平均 74.6 $\mu$  にして、基部約  $\frac{2}{5}$  は滑らかで、末端約  $\frac{3}{5}$  にはやや長い側枝が出ている。前中毛、前、後側毛も共に長く、平均夫々 61.7, 41.6, 70.7 $\mu$  に達し、長い側枝を密に生じている。

胴背面：眼は2対あつて、背甲板の後側毛基根部とほぼ同位置にあり、同大である。胴背面の剛毛は、前中毛や、前、後側毛同様に比較的長い側枝を

Fig. 1. *Trombicula tsushimaensis* n. sp.

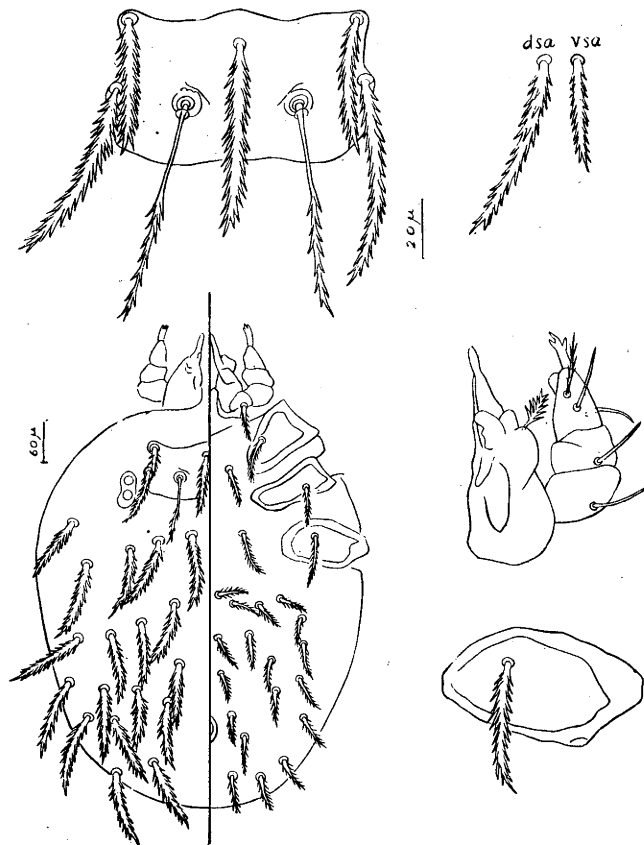


Table 3. Standard measurement ( $\mu$ ) of *Trombicula tsushimaensis* n. sp. and allied species.

Specimen	AW	PW	SB	ASB	PSB	SD	PP-SS	AP	AS	PS	am	al	pl	s	hm	daa	dsp	vsa	
Holotype	80	88	39	29	20	53	-6	22	36	24	68	47	72	80	74	67	54	39	
Paratype No. 1	73.5	81	38	25	20	46.5	-6	25	33	20.5	63	41.5	70	62	65	64	56	37	
No. 2	82	87	39	25	20.5	45.5	-3	25.5	34	23.5	62	36	72	75.5	62	66	46	37	
No. 3	75	84.5	35.5	25	22	47	-5	26.5	33.5	23.5	68	43	67	76	59	68	55	28	
No. 4	81	88	36	31.5	14.5	51	-5	27	39	26	58	42	70	76	74	68	53	39	
No. 5	78	86	36	28	18.5	49	-4.5	22	33	25	57	42.5	76	82	74	66	48	30	
No. 6	79	90	39	30	19	50	-6.5	26	36	26	62	44	65	66	72	70	54	30	
No. 7	79	86	36	29	19	46	-4	27	37	25	59	46	71	68.5	72	71	49	47	
No. 8	77	84.5	35	28	18	47	-5	27	37	25	61	44	69	88	71	68	55	33	
No. 9	75	85	36	26	18.5	47	-2.5	29	35	24	67	40	74.5	82.5	69	63	52	37	
No. 10	82	91.5	38	28	21	49	-3	26	37	28	60	37	73	70	59	66	50	35	
Mean	78.1	86.4	36.8	27.5	19.1	48.1	-4.5	26.1	35.5	24.7	61.7	41.5	70.7	74.6	67.7	67.0	51.8	35.3	
<b>T. daisen</b>																			
Type	73	84	36	26	17.5	43.5	-5	24	32	25	64	39	64	69	64	54	45	32	
Mean	71.8	81.4	35.0	26.2	16.5	42.7	-5.2	23.3	33.5	24.1	57.7	39.9	60.6	66.0	61.3	53.9	43.6	31.9	
<b>T. Kitasatoi</b>																			
Mean	69.0	77.4	33.9	14.3	14.8	27.6		22.0			48.2	39.6	69.8	50.9	61.8	63.2	56.2		
<b>T. tosa</b>																			
Type	70	78	32	29	13	42	-5.5	22	32	24	52	37	65	56	63	54	49	32	
Mean	69.0	81.5	33.5	28.5	14.0	42.5	-5.5	20.5	31.0	24.5	50.0	37.5	66.5	54.0	64.5	55.5	47.5	33.5	

密に生じ、長さも DS-2 の平均  $67.0\mu$  に達している。剛毛式は 2-8-8-8-6-4-2 合計 38 本が普通で、中には 2-8-(7~9)-8-6-4-(0~2) を示すものがあり、第 3 列と後縁に変化があるようである。

胸腹面： 2 対の胸板毛の外に、36-40本の腹面毛を有している。

脚： 脚の基節毛は 1-1-1 で、第 3 脚基節のものは、その前縁より離れて生じている。第 3 脚節には直立した単条長毛はなく、狭義の *akamushi* 群の性質を呈している。

考察： 本種は *Leptotrombidium* 亜属の *akamushi* 群に属し、背甲板の大きいこと、感覚毛、

前中毛、前、後側毛の長いこと、胸背面の剛毛式等に特徴があり、近似種の *T. (L.) daisen*, *T. (L.) kitsatoui* 及び *T. (L.) tosa* 等と明らかに区別出来る。即ち後二者では感覚毛の基部には顕著な小棘があるのに反して、本種では基部約  $2/5$  は完全に平滑である点でこれらと区別され、その他背甲板の大きさ、背甲板上の諸毛の長さ、及び剛毛式等に於て異なる。又本種と前者 (*T. daisen*) とを比較すると、PW は 86.4 : 81.4, SD は 48.1 : 42.7 で本種の背甲板の幅、長さが共に大であり、後側毛 pl が 70.7 : 60.6 で本種のものが特に長いこと、DS-2 の数及び長さが 8 : 10, 67 : 53.9 である点などで区別出来る。

## 採 集 記 録

本種は前述したように、1953年(昭和28年)5月14, 15, 16日及び同年12月28, 29, 30日の2回に亘り、長崎県下県郡即ち対馬の厳原町を中心として、その南方久田村、及び北方の鶏知町に於て、アカネズミ、*Apodemus speciosus* ヒメネズミ *Apodemus geisha*, ヒミズモグラ *Urotrichus tal-*

*poides* より得たもので、対馬に於ては普通に見出されるものと思はれる。

この中より模式標本と、8個体の副模式標本を選んで、東大伝染病研究所寄生虫研究部に、2個体の副模式標本を長大風土病研究所衛生動物学研究室に夫々保管する。

## 摘 要

1) 著者は1953年(昭和28年)5月14, 15, 16日及び12月28, 29, 30日の2回に亘り、長崎県下県郡即ち対馬の厳原及びその近郊に於て、野鼠に寄生する恙虫を採集し、5月には *Apodemus speciosus* 13頭, *Apodemus geisha* 1頭計 14頭, 12月には *A. speciosus* 5頭, *A. geisha* 3頭, *Urotrichus talpoides* 2頭, 計10頭, 合計24頭を得、それに寄生する恙虫2属5種346個体を得た。

2) その中最も多く採集出来た恙虫は、未記録種で、これに対して *Trombicula tsushimaensis* n. sp. 和名ツシマツツガムシ(対馬恙虫)と命名する。

3) これに次で多かつたのは *Trombicula fuji*, *Gahrlepiea saduski*, *T. kuroshio*, *T. tanakaryoi* の順で、夫々133, 48, 24, 3個体の順であつた。

4) *T. tsushimaensis* を除いた外の種類は、何れも日本内地で既に記録されているもので、西日本には普通に見出される。朝鮮系のもは採集出来なかつた。

5) *T. tsushimaensis* の特徴は *Leptotrombidium* 亜属の *akamushi* 群に共通の性質を示している。背甲板はほぼ矩形で、大きく、側縁は後側毛基根部より後方にのびて、丸味もつて曲つて後縁に続いている。AW, PW は平均夫々78.1, 86.4 $\mu$  に達し、前中毛、前、後側毛は 61.7 : 41.6 : 70.7 $\mu$  で共に長く、比較的長い側枝を密に生じている。感覚毛も長く、74.6 $\mu$  あり、基部  $2/5$  は完全に平滑で、末端  $3/5$  の部分には比較的長い側枝がある。胸背面の剛毛式は 2-8-8-8-6-4-2 合計 38-39本である。

## 文 献

1) Baker, E. W. et Wharton, G. W. : An introduction to acarology, The Macmillan Company, New York, 1952.

2) 福住定吉, 小畑義男: 横浜市鶴見区より発見した恙虫の新種に就て。北里実験医学.23(3): 79-81, 1950.

- 3) **Jameson et Toshioka** : Note on some chigger (Acarina; Trombiculidae) from south Korea. *Pacif. Sci.* **8** (1): 11-22, 1954.
- 4) **三坂和英編** : 野鼠とその防除。日本學術振興会, 東京。1954.
- 5) **佐々學, 川島文夫** : 恙虫の研究 (15) 高知県に見出した恙虫の一新種。東京医新誌。 **68** (10) : 9-10, 1951.
- 6) **佐々學, 熊田信夫** : 恙虫の研究 (21) 西日本に見出された恙虫の一新種。東京医新誌。 **70** (5) : 11-12, 1953.
- 7) **Sasa, M. et Jameson, E. W.** : The trombiculid mites of Japan. *Calif. Acad. of Sci.* IV. **28** (5) : 247-321, 1954.

(昭 29. 7. 15 受付)